

横内所長の日本畜産学会功労賞受賞について

当研究所の横内所長が3月28日に開催された日本畜産学会の総会で日本畜産学会功労賞(西川賞)を受賞されました。西川賞は、社団法人日本畜産学会が財団法人西川畜産奨学財団からの寄付を受け入れ、設けたもので、畜産の発展および後進者の指導育成に関し顕著な業績をあげた個人または団体に授与されるものです。

横内所長は昭和42年に当時の農林省九州農業試験場に赴任し、現在にいたるまで一貫して畜産研究の推進、試験研究の運営および後進者の育成に貢献されました。この間、統計遺伝的な家畜育種研究、情報研究、草地研究に取り組み、特に、乳牛の能力評価と選抜方法に関する統計遺伝学的研究では、候補種雄牛の後代検定による能力評価の正確度を高めるための研究を中心に顕著な業績を挙げられまし

た。また、研究成果を実際のわが国家畜改良に生かすために、都道府県の研究者、農林水産省畜産局(現生産局畜産部)、種畜牧場(現家畜改良センター)、家畜改良事業団・ホルスタイン登録協会等、各種畜産関係機関の実務担当者、300名以上の方々に研修を行い、わが国家畜改良の中心的役割を担う者を多く輩出されました。乳用種雄牛の後代検定は横内所長が中心となって理論的研究成果を行政サイドに受け渡し、予算化・事業化されて着実に実施され、わが国乳牛集団の経産牛1頭あたり平均乳量をこの30年間で約3,000kg増加させた原動力となりました。このような業績を中心に高い評価を受け、このたび「乳牛を主体とした家畜の遺伝的能力評価における研究推進と後進者の育成」の功績に対して西川賞が送られました。(企画調整部研究調整官 石田元彦)